

第 14 回尖石縄文文化賞

受賞者:大工原 豊

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月30日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体計11件である。

候補者の内訳は、40歳代から60歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第14回尖石縄文文化賞の受賞者として、大工原豊氏（群馬県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、精緻かつ着実な観察力で縄文石器を体系的、総合的に追求するものである。その手法は、これまでの研究の歴史をふまえたうえで、石器が有するさまざまな情報を実証的に分析し、石器のかたち、石器の機能・用途、石器に使われた石材、石器製作技術、さらには土器型式への帰属率などの研究を深め、縄文社会の総合的理解に努めようとするものである。これらの成果は新たに縄文石器研究を牽引し、縄文文化解明の新地平を拓くものとして高く評価できる。

大工原氏は、さらに緻密な石器研究に立脚して縄文時代の社会構造の解明を目指している。このことは、縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英弑の研究・業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2013年8月30日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第 14 回受賞者 大工原 豊 氏